

1 松溪中学校の教育目標

○自学・自立 思いやり・感謝 鍛錬

2 目指す学校像 <集う全ての人に学びのある学校 >

生徒・教職員・地域・保護者が、新しい気付きをもち、学ぶ喜びを実感できる学校

- 生徒も教師も保護者も地域も、共に学び、向上を喜びとする松溪中学校
- 正しいことが正しいと認められ、共に役割を果たす松溪中学校

3 目指す生徒像<知を鍛え、本物の教養を身に付ける生徒 >

学ぶことを喜びと感じ、心に満ちてくるものを大切に、社会をたくましく生き抜く生徒の育成

- 各教科の基礎基本の定着を基盤として、思考力と想像力を培い、自分の考えと言葉を大事に育て、率直に表明できる生徒
- 考え、判断するための軸を自分の中に培い、何度でも挑戦してよりよい生き方を主体的に求めていく生徒

4 求める教師像<学校の本分・教育者の矜持 >

生徒の向上心と伸びようとする力を応援し、共に成長する教師

- 子どもが「自ら未来を拓く力」を培うことを教師の使命と捉え支援を惜しまない教師
- 自ら学ぶ喜びをもち続ける教師
- 教育公務員として、サービスの厳正を図ることができる教師
- 「生徒の成長を第一に考えているか」という視点から自分の言動を自問自答できる教師
- 自分の人生も大切にできる教師・・・働き方改革への意識を高める

5 今年度の教育活動の取組内容（骨子）

<社会的に自立できる子の育成 >

- 学びの日常化・生活化を目指し、各教科での生徒主体の授業展開の推進
- 生き方教育<歴史が照らす未来へ～私のメルクマールを残そう～その先へ>
(テーマや表現方法を選択して3年間を通して探究する。対話・調べ学習・発表等)
- 道徳教育の充実と卒業生等のゲストティーチャーによる授業・講演等の充実
- 読書活動の更なる推進(授業での図書館の活用と朝読書(課題図書)の充実)

<基礎・基本の定着の徹底と考える力・表現する力の育成 >

- 生徒が自らを振り返り、学んだこと・これから学びたいことを意識化する機会の設定
- ICT活用や表現活動を重視した学習指導の工夫・改善
(基礎基本の習得と主体的な学習態度の獲得)
- 一人一人の学習の定着の見届け・家庭学習への支援
(補習や個別支援の機会確保・「家庭学習の手引き」「自学ノート」充実の支援)

<その他 >

- 学校支援本部・地域やPTAとの連携による多様な学習の機会
(地域や社会とのつながりを意識する。多様な人材との出会い・各種検定実施)
- 松溪中学校の特性や設備を生かした教育活動(メディアスペースやラウンジの活用)
- 特別支援教室の円滑な運営と特別支援教育の推進
- 小中一貫教育による教育活動(小中学生合同の講演会と討論会)の推進
- オリンピック・パラリンピック教育の推進(日本の伝統文化・外国文化を学ぶ等)

| 取組目標 | 方 策 |
|--|---|
| <p>＜知を育み鍛え、生きる上で役に立つ骨太な知性の育成＞</p> <p>・基礎基本の知識の獲得とリアリティのある発想を育み、学びの日常化・生活化を目指す</p> | <p>○基礎基本の定着とともに、【探究】を実現する場면을学習過程に作り、主体的な学習を組み立てる。</p> <p>○学習過程「課題設定（どきどき感・もやもや感）⇒推論（わくわく感）⇒関係性（成就感）⇒評価・共有の場（相互評価や発表）」の場面を取り入れた授業を、各教科でも年2回は設定し、未知に出会う学び・学ぶ喜びを体験させ、学びの日常化や生活化を目指す。そのために、自己選択・自己決定・発表し合い評価し合う場面を設定する。</p> <p>○主体的な学びのために、【個人】自分で考える場面→【対話】集団で交流する場面→【個人】考えを深める場面を設定する。</p> <p>○ICTを活用し、学習状況を把握し、基礎学力の定着を図る。またタブレットを活用し、思考の可視化、意見の交流や共有化を図り、思考力を育成するための授業改善を推進する。</p> <p>○家庭学習の充実を図る。家庭学習の手引きを授業中に説明したり、「自学ノート」への、一人一人の取組の把握と評価・称揚を定期的に行い、取り組む価値と成果を生徒に実感させる。</p> <p>○小テストやコンテストに教科や学年で取り組み、着実な基礎学力の定着と達成感を味わわせる。</p> <p>○定期考査前の質問教室や補習等、個別指導を行い、意欲と自信をもたせる。</p> <p>○各教科や総合的な学習の時間で、図書館やPC室を精力的に活用し情報を取捨選択する力・思考力・発進力や探究する姿勢を育成する。正解のない問いを考え続ける訓練も視野に入れる。</p> <p>○生徒に達成感と自信をもたせるためにも、作品の掲示や校外の作品応募を促す。</p> |
| <p>＜主体的に、学校生活を向上させようとする意識の醸成＞</p> <p>・道徳教育の充実と特別支援教室への理解と円滑な運用</p> <p>・自立する心の育成</p> <p>・自他を受容できる生徒の育成</p> <p>・自己肯定感の醸成</p> <p>・信頼関係のよきまの好ましい人間関係の構築</p> <p>・規律やマナーの指導から集団の一員としての振る舞いを身に付ける</p> | <p>○集団生活の行動基準の明確化と規律の徹底。教師自身も正しい言葉遣いをすることで、善悪の判断力・規範意識や品性を養う。</p> <p>○教職員から進んで生徒に挨拶をし、生徒との適切な距離を保ちつつ、他者とつながろうとする態度を育てる。</p> <p>○道徳の授業や全教育活動を通して、道徳教育を充実させる。話し合い・議論する場面を作るとともに、生徒の学習状況を見取り、適切な評価につなげる。</p> <p>○特別支援教室に対する生徒や保護者の正確な理解を推進する。コーディネーター・巡回指導員・専門員・SC等との連携を図り、校内委員会等を中心に組織的な対応を推進する。</p> <p>○不登校傾向の生徒には、関連機関との連携を密にし、迅速に、有効な働きかけを行う。</p> <p>○所属感・自己肯定感をもてるよう規律ある学級学年経営を行う</p> <p>○教職員が、生徒に対して人権感覚を意識した言葉掛けを心掛ける。</p> <p>○利他的・表面的な学びを多方面の活動から変えていく。ルール等を表面的に捉えるのではなく、「なぜ、そうすべきなのか」を生徒達に考えさせ、指導を形骸化させない。</p> <p>○粘り強く誠実に取り組む価値を意識させ、責任を果たすまで見届ける。</p> <p>○松溪中学校の空間を有効活用し、生徒自らが、日々の生活をよりよく変えていこうとする意識と行動を支援する。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>＜生命の尊重と安全 健康な学校生活＞ ＜生活習慣の獲得・食 育の推進＞</p> | <p>○生徒理解のために、作文や連絡帳を活用し、変化や成長を教職員で共有する。 ○緊急事態において、自分の身の安全を確保できる知識と行動力の育成いじめ 調査や面談等を通して早期発見・早期対応に努める。 ○授業中・部活等のけがや事故等の保護者への連絡を速やかに行い、誤解のな いよう対応する。管理職に経緯を正確に連絡する。 施設設備の定期点検を徹底し、迅速に補修する。 ○食事のマナーや食育の推進を日常的に意識させるよう工夫する。</p> |
| <p>＜よりよい生き方を 求めるキャリア（生 き方）教育の推進＞ ・「未来を拓く子ども を育てる＝社会を生 き抜く力を育てる」 →総合的な学習の時 間を軸 ・地域運営学校・学 校支援本部との協同 →地域人材の参画に よる多様な教育活動 の充実</p> | <p>○生き方教育の視点から、生徒の自分自身との問いを第一に、卒業生と語る会・ 職業調べ・職場体験学習・ようこそ先輩・上級学校訪問等を位置付け、3年 間を見通した系統的な進路指導を行う。 ○「歴史が照らす未来へ～私のメルクマールを残そう～その先へ」をテーマに、 学校図書館活用や地域・卒業生の多様な人材との出会いを通して、「探究」す る学習を展開できるよう、対話活動や主体的な問題解決学習を実施する。 ○失敗から学び、立ち上がる力の涵養。自分と向き合い、よりよい生き方を 考えさせる ○課題図書による朝読書の継続とともに、松溪中学校の特色である、読書活動 の更なる充実を図る。 ○地域運営協議会（地域運営学校）や学校支援本部との連絡を密にし、よりよ い地域人材を招聘したりして、教育活動の質を高め ○CS の委員との懇談等を通して、地域や保護者の声を聞き、学校改善のヒン トと得るとともに、協同のシステムを作る。</p> |
| <p>＜小中一貫に向けた 交流の推進＞ ＜オリンピック・パラ リンピック教育の推 進＞</p> | <p>○小・中学校合同研修会では、子どもの実態の共通把握と学力定着のための共 通した指導法について研修を深める。「サミット」等を活用して、小中生の対 話の場面を更に設定する。 ○オリ・パラ教育は、ボランティアマインド・日本人としての自覚と誇り・障 害者理解・豊かな国際理解を各教科でも推進する。</p> |
| <p>＜学校の本分＞ ①組織人として、教 育公務員の責務を果 たす。 ②一つ工夫を加える ＜働き方改革推進＞ ・自分自身の人生を 大切に生きる。</p> | <p>○学校経営計画・学年経営計画等の実現に向けて、生徒の実態をよく把握 し、有効な指導法を追究する。 ○便りやHPを活用し、保護者への迅速な情報公開に努める。 ○教育公務員としての使命感をもち、サービス事故を起こさない。 ○公金の意識をもち、予算計画に基づき早めの執行を行う。起案のない執行 はしない。 ○私費会計は、20,000円を目途に、学年で調整する。 ○分掌内の役割分担を各主任が明確にし、OJTを徹底する。分掌や学年、委員 会で、改善策を提案し、年度途中でも改善する。 ○ライフワークバランスの考え方を意識し、週当たり60時間以内の勤務を 目指す。部活動ガイドラインに則って行う。 ・職員会議は、1時間以内を目標とする。各分掌会議の報告書は、パソコン を活用して全校で共有する。</p> |
| <p>教師としての矜持 ＜校内研修と自己研 鑽＞</p> | <p>生徒の心に響く「内実を伴う言葉」を発するために研鑽を積む。 ○教科部会で考査問題・観点の妥当性を検討し、指導の質の向上を図る。 ○区・都主催等の研修会にも参加する機会を作るなど、学び続けることで、 試行錯誤を繰り返しつつ、他者からも吸収し、変容を続ける日々でありたい。</p> |